

研修成果報告書

8月22、23、24日の2泊3日で私達布川ゼミの5人は徳島県勝浦町へ移住者である東京都出身の20代の石川さんご夫妻が住まわれる予定の古民家の、改修ボランティアに行きました。

1日目の8月22日、11時50分発のJAL457便で徳島に発つ予定でした。しかし、その日は台風9号の影響で天気が大荒れしており、予定の便で発つことができませんでした。早く到着していた友達のお陰で15時代の振替便を予約することができました。しかし、その便も振替となってしまう、結局搭乗できたのは、17時25分発のJAL461便でした。約8時間羽田空港に滞在し、1時間30分の飛行機を経て、19時に無事に徳島に到着することができました。22日のお昼頃に予定では到着するはずだったので、お昼間のスケジュール（親睦を深めるためのBBQ、ピザ窯講座など）がなくなり、夜からのスケジュールとなりました。徳島阿波踊り空港に到着すると、徳島県勝浦町の産業交流課である係長の北峰さん、中西さん、石川さんご夫妻がお出迎えしてくださいました。外はもう真っ暗で、曇っていたために、楽しみにしていた星は見えませんでした。夜ご飯をご馳走していただくということで、徳島名物徳島ラーメンを食べに北峰さんの車でお店に向かいました。その車の中でたくさんのお話を伺いました。徳島県の川は広いこと、山はそこまで高くないのに、かなり近くにあるためにとても高く見えること、などです。一緒に来た友達の中に地元が北海道と宮城県の子がいて、景色が似ていると言っていました。しかし、北峰さん曰く、北海道や宮城県は徳島県と違い、土地が広いため、山は高くなだらかであり、徳島県は土地が狭いためにぎゅっと詰まっており、山が近くて高く見えるそうです。そして勝浦町で6月にはホテルが川に集まり、それはそれは綺麗だそうで、ホテルは19～20時が見頃であり、21時～22時を過ぎてしまうと眠ってしまうそうです。徳島ラーメンに着いて、徳島ラーメンセットを食べました。徳島の中で、徳島ラーメンのチャーハンが1番おいしいそうです。有名店と言われているだけあってかなりの数の芸能人のサインが飾ってありました。徳島ラーメンのお肉は、チャーシューとバラ肉があり、バラ肉の方と言ったら徳島とおっしゃっていたのでバラ肉を選びました。とても美味しかったのですが、徳島の方達はバラ肉は油っぽく味が濃いため飽きてチャーシューを頼むんだとおっしゃっていました。そのまま、これから泊まらせていただく民宿へ送っていただきました。民宿へ向かう途中、辺りはとても暗くなっていました。そこで中西さんが地方ならではの事を教えてくださいました。外灯が本当になく、信号も普段私達が見ている3色の信号ではなく、黄色のランプ1色がチカチカと光る信号の役割を果たしているのか疑うものが点々とあるだけでした。その信号で、誰かが止まっているのを見た事がないそうです。そして、辺りはとても暗いので、車のライトは都会では使わないまぶしいハイビーム

ムをずっとつけていました。ロウビームとハイビームの違いを見させていただきましたが、ロウビームだと前方が全く見えず、とても危なかったです。そして、ここでは、コンビニは2軒しかなく、歩いていくと2時間ぐらいかかってしまうので、車が手放せない車社会であるとおっしゃっていました。私達女子3人は「ふれあいの里さかもと」というところに、男子2人は石川さんご夫妻が今住んでいらっしゃる、坂本家に泊まりました。ふれあいの里さかもとは、昔小学校だったところで、廃校になって宿舎に変えたそうです。宿舎の管理人さんは、その小学校の卒業生で、卒業してから50年、北峰さんも卒業生で、卒業してから30年たっており、廃校になってからも母校に携わっており、何世代にわたり、母校への愛が感じられとても心が温かくなりました。「また行きたい」より「また逢いたい」と思える町でした。

2日目の8月23日、石川さんご夫妻が住まわれる予定の築150年の古民家の改修ボランティアをしに朝から行きました。その外観、景色がジブリ映画に出てくる「となりのトトロ」のようで感動したのを覚えています。壁塗りを教えていただいた大友さんは、壁塗りの達人で、大友さんが塗っているのをみると、簡単そうな作業なのですが、やってみると難しいという奥が深い作業でした。私達が塗った家に石川さんご夫妻が住まわれるのだと思うと頑張ろうと思うと同時に、大事なこの作業に関わられて嬉しく思えました。石川さんご夫婦は、「町内外問わず、多様な視点を持った人と協力して民宿を作っていく、農業体験やさまざまな催しを通して楽しめる場所にしたい。」とおっしゃっていました。壁塗りを手伝いに来ていたのは、私達学生と、大友さんのほかに、木島さんという、勝浦流イタリアンカフェを運営している方も来ていました。この人もまた、東京からの移住者で、10年前には調布に住んでいたそうです。壁塗りのボランティアを終えて、木島さんのカフェへ向かいました。そのころには辺りはすっかり暗くっていました。1日目には見えなかった星が見えていました。やはり、東京とは違い、満点の星空でした。まるで、プラネタリウムです。木島さんのお店に着いて、コーヒーとアイスをいただきました。かなり、おいしかったです。

1日目、2日目と石川さんご夫妻の手料理をいただいたり、私達が作ったりと、石川さんご夫妻がそだてていらっしゃる作物をふんだんに使った料理で、とてもおいしかったです。お土産に、徳島名物のすだちと、かぼちゃをいただきました。

最後に、私はとても印象的なことを木島さんがおっしゃっていたことを覚えています。「この土地は道が狭く、車通りも少ないので、スピードを出さなければ危なくはない。しかし、お年寄りの事故は絶えない。事故を少なくするために、お年寄りから免許を奪ってしまえばいいという意見がある。だがここはコンビニまで片道2時間である、車社会の世界だ。免許を取り上げてしまったら足がなくなってしまう。では、どうしたらいいか。解決策の1つに、福祉タクシーという、お年寄りのタクシーやバスなどがある。無限にお金をかけられるならば、この方法でもよいかもしいない。けれども、お年寄りは年金暮らしである。この問題を解決するにはどうしたらよいかね。」

私はこの話を聞いてとても考えさせられました。この問題はとても難しいと思います。私はこの課題の解決策について学んでいきます。